

C-02 心臓内科選択プログラム

概要

(1) 心臓内科選択プログラムは、選択科目として心臓内科を選択する場合の研修プログラムである。

(2) 当院心臓内科ならびに心臓内科選択プログラムの特徴：

(3) 選択期間中には指導医と相談の上、研修医一人ひとりが自分のキャリア育成に合致したSBOsを設定することができる。一方で、選択科研修中においても、中央病院プログラムが2年間で必要と定めた中央病院一般目標GIOならびに行動目標SBOs(EPOC)の達成度を上げる必要がある。

指導責任者：那須 博司

目標

一般目標(心臓内科選択研修 GIO)

将来遭遇しうるいかなる状況においてでも思いやりを持ちながら良質な全人的医療を行うために、心臓内科疾患の知識・診断・技術を習得することを通して、将来の専攻する診療科にかかわらずプライマリケアの臨床に必要な基本的診療能力(態度、技能、知識)を修得する。

行動目標(心臓内科選択研修 SBOs)

個人で決めるSBOs

診療科が推奨するSBOs

EPOCで定める目標

EPOCで定める目標

1. 心臓内科で必ず修得しなければならないEPOC項目(マトリクス表で)

A-3-5 心電図(12誘導) 負荷心電図

A-3-14 超音波検査

A-4-19 除細動

B - 1 経験すべき症状、病態、疾患

B-1-5 浮腫

B-1-19 胸痛

B-1-20 動悸

B-1-21 呼吸困難

B-2-6 急性心不全

B-2-7 急性冠症候群

B - 2 経験が求められる症状・病態

B-3-5 循環器系

(1) 心不全

(3) 心筋症

(4) 不正脈

(5) 弁膜症

(6) 動脈疾患

(7) 静脈・リンパ管疾患

(8) 高血圧症

B-3-6 呼吸器系

(4) 肺循環障害

2. 心臓内科で修得するのが望ましい EPOC 項目(マトリックス表で)

| | |
|-----------------------|------------------|
| A-1 医療面接 | A-4-11 ドレーン・チューブ |
| A-2-1 全身観察 | A-5-1 療養生活の説明 |
| A-2-3 胸部の診察(乳房の診察を含む) | A-5-2 薬物療法 |
| A-3-1 尿検査 | A-5-3 輸液 |
| A-3-3 血算・白血球分画 | A-6-1 診療録作成 |
| A-3-4 血液型判定・交差適合試験 | A-6-2 処方箋、指示箋 |
| A-3-6 動脈血ガス分析 | A-6-3 診断書、死亡診断書 |
| A-3-7 血液生化学検査 | A-6-5 紹介状、返信 |
| A-3-8 血液免疫血清学 | A-7-1 診療計画作成 |
| A-3-9 細菌学的検査・薬剤感受性検査 | A-7-2 診療ガイドライン |
| A-3-10 肺機能検査 | A-7-3 入退院適応判断 |
| A-3-15 単純 X 線 | A-7-4 QOL 考慮 |

B - 1 経験すべき症状、病態、疾患

- B-1-1 全身倦怠感
- B-1-12 失神
- B-1-34 尿量異常
- B-2-1 心肺停止
- B-2-3 意識障害

B - 2 経験が求められる症状・病態

- B-3-10 内分泌系
 - (5) 高脂血症

C 特定の医療現場の経験

- C-1 救急医療(救急医療の現場を経験すること)
 - (1) バイタルサインの把握ができる
 - (2) 重症度、緊急度の把握ができる
 - (3) ショックの診断・治療ができる
 - (5) 高頻度救急疾患の初期治療ができる
 - (6) 専門医へのコンサルテーションができる
- C-6 緩和・終末期医療(臨終の立ち会いを経験すること)
 - (1) 心理社会的側面への配慮ができる
 - (2) 緩和ケアができる
 - (3) 諸問題への配慮ができる
 - (4) 死生観・宗教観への配慮ができる

3. 全ての科で目標とする項目(マトリックス表では)

I. 医療人として必要な基本姿勢・態度

- (1) 患者-意思関係、(2) チーム医療、(3) 問題対応能力、
- (4) 安全管理、(5) 症例呈示、(6) 医療の社会性

方略(LS)・評価(EV)

- A-13 心臓内科プログラムを参照